

萩田顧録附録

萩田顧録附録

古が酒

山本勉弥編

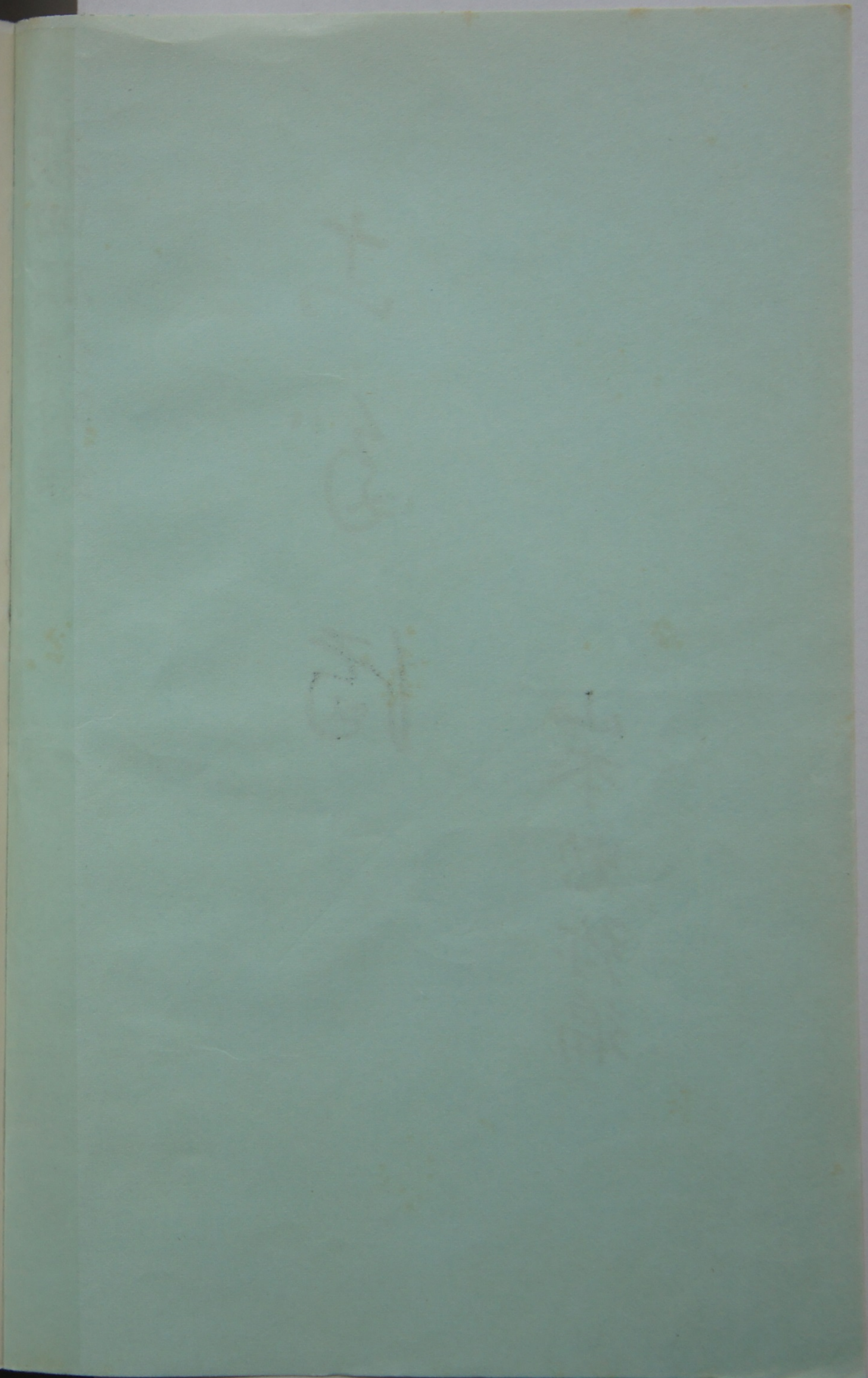
Y2

18





山本勉弥肖像



はしがき

私の五十年の思ひ出を記しました「萩回顧録」を皆様には奉呈致しましたところ、意外の反響があり、溢美のお言葉を多く寄せられ、誠に物躰ない程の成果に驚きました。私は感激に満ちて是等の有難いおたよりを繰り返へし繰り返へし拜誦致しました。

本録を出しましたことさへ尻こそばゆく感じて居りますのに、記念とは申せ更にかゝる小冊子を添へるのは如何かと幾度も躊躇致しましたが、諸賢の御芳志を一書に纏めて容易に通覽し得るやうに爲し置くのも、私にとつて徒爾のことではないと考へ、不完備ながら「こだま」と題して、要項を集録させて頂きました。何卒輕舉御寛容の程をお願い致します。

尚諸友の追憶談中には本録の補遺とも見らるゝものがありますので御高覧下さい。又交友の近況御諒知の葉りともならば幸慶であります。

凡例

- 一、萩市医師会有志者は私の萩文化叢書が略成したのを祝し、十二月十二日私の油絵肖像を贈られました。巻頭に掲げて特別の御厚情を謝します。
- 一、肖像の筆者は萩第一中学校に奉職して居られる東京美術学校出身の大和義男画伯であります。
- 一、表紙の紋は家紋であります。
- 一、活刷の都合上諸賢の敬称を省かしていただきました。
- 一、掲出の順次は便宜上目次の通りに致しましたが、各章に關係ある方があり、是は判然たる区別とは申されませぬ。
- 一、本冊発行に当り、種々のお気付を寄せられた田中助一氏竹内八郎氏の御芳情を謝します。
- 一、表紙の文字は友人の勧めに従ひ、編者が秃筆を振りました。

目次

一章	長老、高位、大官	一頁
二章	県議交友	二頁
三章	九大諸友	三頁
四章	七高造士館の友	四頁
五章	和歌山中学の同窓	五頁
六章	史学の友	六頁
七章	各地の知己	七頁

八章	県下の医友	九
九章	萩の医友	一〇
十章	萩の知友	一一
十一章	直接の挨拶	一二
十二章	若かりし萩の友	一三
十三章	親戚	一三
十四章	其他丁重なる謝状、謝辞を寄せられたる諸氏	一四

正誤表

頁	段	行	正	誤
二	下	四	尊影	尊影
三	下	二五	おたづね	あたづね
一四	下	一八	久保田温郎を加ふること	

第一章 長老、高位、大官



○ 九十翁 紀藤 閑之介

愚息常亮よりの依嘱に依り、腰折一首相認め申候。

萩回顧録を拝見して

秋草の茂るがまゝの山庵に

萩の一房咲きしゆかしさ

○ 松 林 篤

貴著萩回顧録老生まで御惠贈、御趣味に富み玉へる御生涯の御思ひ出、誠に面白く拝読致居候。

○ 毛利 元道

貴殿の御研究と情熱をさゞげられた貴著はゆる／＼熟読いたし度いと存じます。

○ 毛利 元恒

貴重なる内容永く記念として保存致します。

○ 菊 山 嘉 男 (元山口県知事)

あなたが医家として済民これ御多忙の中、文学哲学は素より遠く宗教の深奥にまで、思ひをひそめられつゝある事実を知り、敬意を新に致す次第、何卒益々御健康、御精進の程希望致します。

○ 中 川 望 (元山口県知事)

早速大急で瞥見中「萩自彊会」の項に先づ我名を見出し、岩田、岡村等旧知の名を直ちに捕得て感慨真に深きを覚えました

○ 岡 田 周 造 (元山口県知事)

あなたの五十年の貴い生活がよくわかりますと共に、至る所私の昔の生活につながる思ひ出の種子が出来まして、唯々なつかしい思ひで一杯です。

○ 小 西 竹 次 郎 (元山口県内務部長)

歌に句に文章に一々感佩いたしました。実にこれこそ悠久のお仕事と敬服に堪えません。殊に満鮮旅行の風物記私も回顧にふけりました。

○ 吉 田 祥 朔

一読多年御尽精の跡を拝し只々感激の外無之候例の偶成一首不顧謔劣録上博御笑覧候

志業経営自有源 濟世憂時又同根

欽君仁治施郷党 回顧録成補後昆

○ 姫 井 伊 介 (元小野田市長)

一、秋夜心読さしていただきます。

二、拙謡 法燈指月の北汀九華、光る詩歌史書菩薩行。

三、受褒御祝詞恐縮に存じます。

拙句 寝められてはにかむ野菊小さく座す

○ 永 田 新 之 允 (元岩国市長)

未だ精読の時間を得ませぬが、目次により大要を拝察するに、御健筆の上、事功、趣味、觀察、多方面なるに感心致します。ゆる／＼拝見致しまして、二十年近くも御無沙汰してあります錦地の風光動静を回顧したいと存じます。

○ 高 橋 亨 (元京城帝大教授)

老兄益々御清健、筆硯亦愈々御多祥、著作継出の事、欽羨至極に

御座候。今般玉什一冊御惠贈に預り空谷遺音、雖有拜受、且読且追懐楽み申候、天理図書館には俳句集富蔵候間いつか又御来館如何と奉存候。

○ 羽仁五郎 (評論家)

早速拜見、貴重な御躰験から多大の教示をうけて居ます。

○ 高橋忠治 (元山口市長)

早速通読、再読、漫読、多大の感興を受け申候。各章読過の間、尊台の御人格に触れる気持が致し候。特に萩上水道鉄管問題は小生十年五月着任、山口市上水道工事を継承、十一月通水式挙行迄貴市の紛糾を高見の見物致した当時を回想して特別の感銘を受け申候。

○ 細迫兼光 (元小野田市長)

貴著御慮投誠にありがたく、一気に読過いたしました。

○ 久芳庄二郎 (元明倫小学校長)

御芳情洵に感銘いたしました。ゆる／＼拜見いたし度いと楽しんで居ります。「我流の和歌と俳句」につきラジオ放送いたしました原稿別送、御笑覧下さいませ。

第二章 県議交友

○ 樋口彰一

政治あり、宗教あり、文学あり、御近詠あり、貴下の面目躍如として恰も膝を交へて御話を聞いて居る感が致しました。

○ 中司菊治

寔に有難く拜読致して居ります。貴台多年御苦心の著書永久に保

御真想有難拜受致しました。寛々拜見致します。一度御拝姿の上種々懐旧の御話し申上度存じます。

○ 坪井幸一

小生をお忘れなく御送与に接し、誠に有りがたく又懐かしく思ひます。貴著は日を重ねて拜読する考へであります。

第三章 九大諸友

○ 小川勇 (元奉天赤十字病院長)

思ひがけなきおたより有がたくうれしく拜受、高著はゆる／＼拜読致したいと思ひます。別便拙著四冊贈呈致しましたから御笑覧を願います。

○ 藤沢幹二

巻頭の貴影昔に比し温和の相に拝し、宗教的御修練の賜と欣喜に存じます。早速通読、各方面御活躍御励精の趣、木曜会時代の御意気更に旺盛となり、随時発揚せるものと感慨深きものがあります。

○ 後藤七郎 (元九大教授)

暫く拝姿致さぬのに、御写真を拝すれば大変の御変りで、昔の面影をやつと思ひ出す位であります。

○ 赤岩八郎 (元九大教授)

早速拜読、貴殿の約五十年に亘る医政、社交等の御活動、小生の如きものにとりましては有益なる参考となりました。

○ 黒田静 (中学校同窓)

一、貴著により医術の傍、社会活動に従はれ、後更に郷土史の研

存致します。

○ 小林収三

素よりの高尚な文筆の御趣味敬服羨望の外ありません。時恰も高天肥馬の好季益々御健勝の段、巻頭の御尊影を拝して慶祝旧慕の情に堪えません。

○ 青木作雄

尊台の面目躍如として回顧せられ感慨無量のもの有之候。小生も若い時分より過激派あつかいを受けたるも、役目終了の気持にて特に終戦後は自適の生活を楽しみ居り候折柄、尊台の近況を窺知する事を得て、録々消光の我身を恥かしく覚へ申候。

○ 弘田達三

殊に満鮮風物の一編思ひ出深く拜読いたしました。

○ 伊藤三樹三

殊に満洲回顧に付ては思出でを新たにいたしました候。お隙の時是非御来遊お待ち申候。

○ 紀藤常亮

ゆる／＼拜見さして戴きます。私方父も九十才の齡を重ね、髻髻として居り、孫息子も出来、親子四代この世の御世話になつて居ります。

○ 渡辺剛二

貴台益々御頑健、壯者を凌ぐ風貌に驚きました。私事は本春來骨盤骨の粗鬆症に罹り、猶右足の歩行不自由にて他出も出来ず、毎日ベットに暮して居ります。本日から又コバルト治療を始めサナトリウムへ入院します。

○ 清水為吉

究に入られし由、只今御健康も完全に拝し、慶賀の至りに不堪二、拙者は貴兄に対し和中、福岡大での思出は勿論だが時々想起するは相携えて恩師中先生の御病気を小日向台町に御見舞したことです。

三、悼兄 柳育庭梅霜雪中 欲花忽落慕天風

吾生既老吾兄逝 今世與誰奉公

○ 小野寺直助 (元九大教授)

一、先日は久し振りで御温顔に接し、昔を懐しみ、非常に愉快でした。

二、貴著一辺に読了致しました。学兄が学生時代の純情を以て市政に活躍された有様を彷彿し感動させられました。

三、庭の小鳥の觀察など面白く、私の庭には毎朝五十位の雀が集まり、粟稗をたべています。人間よりあつかい易いと思ふて眺めています。

○ 高安慎一 (元熊大教授)

往時在学中、木曜会などに於ける當時を追懐し、感無量でした。思想家であり、情熱家であつた貴兄が理想と抱負に邁進せらるゝ御生活には、大に敬意を表する次第です。

○ 明石真隆 (元熊大教授)

御尊影を見ても、当時のそれから違つてゐて、想ひ出せませむ、当時主張された趣味の生活を回想し、豊かな文章に万感無限です御長生をお祈りします。

○ 大平得三 (元九大教授)

誠に忠実な御記録と文芸あり、ありがたく存じます。小生次男山口市にをりますので其うちあたねする事も可能と存じます。

○ 天野 雄
御端書いたゞきなつかしうございます、その上に御著を頂き、必ず
ず楽しみつゝ拝読させて頂きます。益々御健闘を祈り上げます。

村上直次

○ 卒業後五十年近くにもなります、去る五月の同窓会では、だれか
一時思ひだせん方もありました。貴著ゆつくり拝読致します。

今西平五郎

○ 貴著御贈りいたゞき難有拝読いたしました。大阪を中心に近畿同
窓会（稲田先生御命名アノクサ会）が毎月大阪であり、僕も時々
出席します。

○ 高橋 明（元日本医師会長）

貴者は座右に備へゆるく拝読し、貴台の高風に浴する所存です
御互に今後共無理せぬよう目愛致しますませう。

佐藤清一郎

○ 五月の同期生会合は旧福岡時代の語り草がいろく出で大変楽し
い集りで、貴殿の見えぬのが残念でした。人数が少いので一級下
の高橋明君と私が参加致しました。

○ 飯島 博

貴著を拝見してゐますうちに、昔の福岡東公園の先生御主宰の学
生グループを思ひ出でます。小生も御主旨に共鳴していたもので
した。先生の御顔と笑を含みての御話の模様、未だに忘れていま
せん。相かはらず多方面に御活躍の様、目に見える如く、昔をま
のあたりに呼び出でます。小生はいつでも医事新報にくたらぬこ
とを書いて居ますが、御覽の栄を得てまいらうか。

石川 重道

○ 清川 弘道（九大同期生）

貴者只今着き直ちに通読しました。今迄の著書の中一番充実した
兄の一代記で、面目躍如として居ます。誠に意義ある偉大なる兄
の足跡が永遠に残る記念塔です。

岩淵 友次

○ 開封一番学兄の健在な尊顔を接し、久し振り御声咳にふれた様に
感ぜられます。兄の半世の御活躍の概況を拝見、誠に荻町のみな
らず社会の為め御尽瘁を貫かれし段、慶祝の至りに堪えませんが、
敬服の至りです。

○ 末吉 雄治（元慶大教授）

御近影に接し、若かりし折の面影残りて懐しく、また非常にお元
気の御様子にて悦ばしく存じます。

○ 菊地 銚二

一、堂々たる剣士の相を備えられた御尊影拝見、半世紀の昔七高
時代竹刀を交えた時の事を思ひ出します。

二、御令閨様嘗て京大三浦博士に受診せられた由、其後如何であ
りますか、荆妻と共に御本復をお祈りして居ます。

三、貴兄も百年の寿を保たれる様御保養下さい。小生もフレッツ
ヤー主義をこれから実行して撰養につとめます。

四、貴著に河野先生古稀祝賀会のこと、ありますが、どうか宜
しく、お世話になつた恩息は無事若松市で在職して居るとお伝
へ下さい。

五、著書は再三拝読。法鼓論策、満鮮風物、高野山詣など感慨深
く拝見しました。

六、波瀾万丈の御活動、君を知るものとして快を覚えました。

五十年前の木曜会館時代を回想して今昔の感に堪へません。先生
には永年に亘り、各方面に研究を積まれ、数々の著書を現はされ
て人世を極めて有意義に活用せられ、羨望の至りであります。御
著は是から毎日楽しみに拝読させて頂きます。

森 周三

○ 回顧いたしますれば明治四十一年でございますか、東公園馬出の
渡辺さんの設立された寄宿舎に御厄介になり、当時橋本、山本、
明石の諸先生又矢野、渡辺泰、伊勢の諸先輩方の御指導に預り、
食堂にてピンポン（現時の卓球）に時折打興じ、一度は久保猪之
吉先生御宅へ試合に押しかけ、彼是と往時を偲び、唯々感慨無量
に存じます。

井 口 淡

○ 五十年前学生の頃住吉宮の境内に下宿して居られし頃、色々と面
白き御話を承はりたる事共思ひ出します。その頃に比べて福博の
市街は全く變つて来まして昔の俤は殆んどありません。春吉の辺
など福岡の第二の中心になつて来ました。秋風颯々尊兄の御健祥
を御祈り申上ります。

楠 五郎雄（前九大教授）

○ 御高著御恵与にあづかり大変興味深く拝読いたしました。

○ 勝木 司馬之助（九大教授）

益々御元氣にて斯界に御貢献の御様子、後進としましても誠に心
強くよろこびに堪えない次第です。

第四章 高造士館の友

七、風光明媚の萩の山川、明神池などの思ひ出に耽りつゝ、遂に
夜の明ける迄本書を書き続けました。

○ 中尾 景治

○ いづれ内容を詳しく拝見致しますが、斯る大部の著述敬服の外あり
ません。学生時代の貴下の面影は能く記憶に残つて居ます。

○ 石黒 忠篤（元農林大臣）

○ 閑を得て拝読の栄を楽しみます。

○ 坂 西 信

父信次は昭和二十六年五月脳溢血にて他界致しました。当地開業
四十年余、満六十九でした。存命なればどんなに喜んだこととせ
う、貴著は仏前に捧げました。

第五章 和中の同窓

○ 滋野 左右吉（九大同窓）

兼てより文章に達せ居られる貴兄の著述の御丹誠の結果、面白く
有益に拝読致しました。

○ 十河道 之介（元母校教諭）

大兄には御余技をもつて多方面に活躍せられ、偉大なる御功績を
のこされましたことについて、深い敬意を表します。私事五十年
間たゞ一ヶの教室にのみとちこもり、一向に社会的な活躍の出来
ませんでしたものから見て、羨望の至りです。

○ 西本 雄次郎（元陸軍大佐）

貴兄の颯爽たる英姿に接し感慨無量、自分を反見るに「鏡見て今
更ながら老を知る」。

○ 国 中 晋 (元陸軍少佐)

○ お写真を拝し昔のおもかげはなく立派な学者タイプ。昔の友は何と申してもなつかしきものです。

○ 林 出 賢 次 郎 (元満洲国大官)

○ 巻頭の御近影円満なる慈顔を拝し、敬慕の情禁じ難く、貴著拝読和申當時を回想して感無量であります。

第六章 史学の友

○ 小川 五郎

○ 御高著御恵投にあづかり早速拝読致しました。いつも乍ら教へられるところ多く忝く存上げます。

○ 御 蘭 生 翁 甫

○ 直ちに一過眼拾ひ読を致しましたが、尊台の高潔なる人格と尊い御業績が窺われ、萩市の史料とも可相成と存じ、これより精読味読致し度いと楽しみにしております。

○ 岩 根 保 重

○ 先生御活躍の跡を偲ぶと共に萩市の裏面史の貴重な資料として興味深く拝読致しております。

○ 石 川 卓 美

○ 私は昭和初年以來ほとんど三十年御厚誼をいたゞいてをりますが本書は平素の先生の真面目がうかがわれ、好き記念物として架蔵さしていただきます。

○ 松 岡 利 夫

○ 早速読ませて戴き、学部蔵本にさせてもらいます。

○ 得にくいことを痛感しました。

○ 学 半 河 野 通 毅

○ 読萩回顧録呈九華堂先醒

○ 政界杏林心自舒、(政界杏林心おのづから舒ぶ)
上医治国幾居諸、(上医は国を治す幾居諸ぞ)
功名遂身維退、(功成り名遂げ身これ退く)
楽在幽棲繙史書、(樂しきは幽棲して史書を繙くにあり)

○ 桂 芳 樹

○ 随分多方面に御活動の事を知り、更に畏敬の念を強ういたしました。古稀も今では稀でなくなりつゝあります、折角御自愛文化叢書の御続刊を期待致します。

○ 高 橋 政 清

○ 萩文化の振興に相変わらず御精進の様子を拝し、嬉しく懐しく存じました。私は昨今俗務に追ひ廻され、久しく学問の世界に遠ざかり、我ながら心寂しく存じて居ります。

○ 内 田 伸

○ 全文に先生の御人柄がにじみ出ていて、面前でお話を伺つて居る様な気が致しました。この様にその当事者が全く客観的に記して残しておかれますならば、正しい資料として後年を益すること甚大であると信じます。私も見習い度く存じます。

○ 能 美 宗 一

○ ほんとはよきお企であり、後進を被益するところ少からずと感佩罷在ます。尚ゆつくり拝読すべく楽しんでおります。

○ 山 根 友 一

○ 益々萩文化に御尽力下され誠に感激の至りであります灯下読書の

六

○ 三 坂 圭 治

○ 一、私も平素自分の好みで、又時には人々に頼まれて、調べたり書いたりはしていますが、そのどれもが散文ばかりで、氣持の持方にも幅がなく深みがなく、自分ながら淋しくも恥かしくも感じていたもので御座いますから、此度の御著を拝見し、同じ回顧にしましても文あり詩あり、あの様な形で色々の思ひ出を御まじめになりましたことを、心から御羨しく存じました。

○ 二、最後の方は去る十一月十三日十四日下関で開かれました中国五県の高等学校長会議に持参して、宿舎で拝見しましたが、同宿の連中に何を讀んでいるかと聞かれ、私の存じています範圍内で先生の御人柄を語り、感銘をうけました箇所二三を開き示して、お互に青少年を育くむ職にありながら、とかくつまらぬ事に頭を悩ませて、日常の生活を心貧しくしていることなど、味気なく語り合つたことで御座います。

○ 伯 野 香 陵

○ 貴著も十一冊と相成り、その御努力には全く敬服いたします。愚生もそれをお手本とし努力したいと考へて居ります。只今小野田市史資料編下巻印刷中です。

○ 沖 本 常 吉

○ お近づきを得て己に二十年、御業績を偲ぶにつけ、若年の小生何も残すものなく、御愧しい限りです。

○ 河 合 正 治

○ 多面的な内容にて興味深く拝読しています。このように近代の出来事を客観的にまとめおいていたゞくことは有難いことです。小生広島市史等の編纂に従いまして案外近代の史料をまとまつて

○ 好季となりました、有難く拝読させて頂きます。

○ 上 野 さ ち 子

○ 御本はたのしみながらこれから読ませて頂くつもりでおります。長い先生の御業績のあとを思いましてむちうたれる思ひで一杯でございます。

○ 高 橋 忠 臣

○ 先生には依然郷土史学に御精励の様子を拝し、おうらやましく存じ上げます。小生もボツ／＼ながら本邦キリシタン史の研究をつゞけて居ります。

○ 黒 田 幹 一

○ 五十年間各方面に亘る御活躍の尊き記録として長く郷土史を飾ること、思ひます。

○ 西 吉 治 夫

○ 「満鮮の風物」中に小生の名前が現はれ殊の外嬉しく感じられ、一生の記念として保存致す可く候。

○ 山 本 博

○ 全部通読させて頂きました、私の記憶にあることなどあつて感慨無量です。

第七章 各地の知已

○ 福 本 義 亮

○ 殊に拙宅御来訪時の御歌や、廻瀾条議の一節がありまして、私そのものが「先生を永遠に生めるか」と思ひました時には、覚えざる涙を催うしました。これから毎夜精読する心づもりをいたして居

七

ります。

○ 久 宗 董 (元台湾銀行副頭取)

此間中は不健康続き、少し長い旅行は全く出来ない。貴方へはもう逢ふ機会がないやうで残念です。貴著大変感慨深く拝読しました。

(十月六日鎌倉市発書十月二十日逝去)

○ 大 村 武 一 (前県立萩図書館長)

溢れる程の故郷の匂をのせた貴著をいたゞき、誠に有難う存じました。故郷を離れて満三年、時々萩の風物を思ひ浮べるごとに、親しかつた人々を黙綴するのですが、その中には必ず先生の御風貌があります。

○ 橋 本 正 之

御惠唱の貴著珍重熟読させて頂く所存に有之候、国会土京中、書中略儀乍ら御礼申上候。

○ 今 澄 勇

貴著有難く拝受、今後のよき参考資料に致す心算りで居ります。

○ 岡 崎 良 男 (川上村長)

日夜余暇をみては熟読して居ります。私も半生を萩の江向馬場町にて暮らしました関係上、知名の人の話又は記憶に残る問題事件或は長門峡に縁のある御作品等興味津々たるものがあります。御健康の許す限り、後世に残される記録の完成を御願ひし度いと思ひます。

○ 橋 崎 鉄 香

貴著早速拝見致しましたる処、御近影に接し、益々御健勝の態、大慶此事に存じます。細部の記事は其内暇を得て拝読致します。

先生の御健闘慶賀の至りに存じます、貴著まことに立派な御編纂有難く御礼申し上げます。

○ 前 川 憲 夫

御著早速御送与下され毎々の御厚情感謝に堪えません。充分拝見の上、同志に回覧お宣伝致します。

○ 弘 田 義 助

貴著拝受、懐しく又面白く拝見しました。書籍の内容もさる事ながら高台倍々御健健の事、何よりも嬉しく感じました。一度ゆつくりお話をと、その機会を待望して居ります。

○ 和 久 井 宗 次

貴書御惠与に預り御芳志の段深謝致します、早速興味深く読みつゝ居ります。

○ 横 山 繁 雄

一、多年先生の政治文化其他に貢献せられたる偉をしのび、敬仰して居ります。

○ 渡 辺 日 出 志

久我岩雄は昭和廿九年三月死去致しましたので、貴書は父の靈前に捧げさせて戴きました。懐しく味読して居ることゝ存じます。私は岩雄の長男で耳鼻咽喉科を継いで元気にやつて居ります故、御放念下さい。

○ 原 田 寛 一 (美祿警察署長)

早速一通り拝見させて頂きました。先づ御近影を拝見し昔と変りない御壮健さにしみじみと見入りました。更に私か御世話になつた大正九年から十二年頃の記事特に長門峡牛若山五首阿武川下り

○ 田 中 住 一

只今右手首を手術して臥床しておりますのを幸い、全巻を読破しました。全く萩市における文化五十年史とも云ふべきもので、特に文学報国会当時のことは小生にとつても実に思ひ出深いことです。

○ 村 上 乙 彦

今日まで多くの叢書を上梓致されました上。今度も亦貴重な書を御完成致されました偉大な精神力に対しては全く驚き入りました。私も駐留軍で働いた時入手した資料をまとめ度いと考へて居りますが仲々手につきませぬ。

○ 矢 尾 俊 光 (和歌山市菩提寺住職)

結構なる史跡、俳句、和歌等を拝見申上、山本様の御人格又人生航路の一端を拝し度、日々是より拝見申上度存じます。

○ 梅 田 利 一

新著御惠送万謝致します。一度萩へ参り度と思ひつゝ、十数年御不沙汰致し申訳ありません、今明年中には是非出萩の心組み致して居ります。

○ 滝 口 吉 継

一読懐旧の情禁せず、又新たに教えられることも多々あり、その内ゆつくり拝見いたし度ものと考へています。

○ 白 藤 董

先生益々御筆健に被為涉大慶に存じ上ます。御尊著只今拝見いたしました、秋燈下楽んで精読拝誦、高風を景仰いたしたいと思ひます。

○ 高 村 雅 一

の俳句等は当時を偲び何回となくくり返し拝読しました。そのほか先生が萩市政や文化面に活躍され、事等其輩の私も興味をもつていた訳か、萩を回顧するとき、思ひ出は尽きないものがあります。

第八章 県下の医友

○ 井 上 敬 義

貴著御惠贈奉鳴謝します。診療の余暇度々拝読、貴兄の社会的大活躍を追想致します。

○ 木 村 善 之 助

貴著有難う、仕事の合間に読んでみます。お互に健康に注意して頑張りませう。

○ 三 河 内 省 三

御尊影ある最近の山口県医師会報を見て一層なつかしきを感じて居りました折柄、御葉書と共に御近著お送り下さいます有難う存じます、ゆつくり拝見させていただきます。

○ 木 村 友 敬

内容頗る豊富充実、先生の絶倫なる御精力と、たゆまざる御努力と、更に計り知ることの出来ぬ詩囊の深さに、たゞ驚く計りです。

○ 西 尾 喜 平 治

貴書御惠送下され深謝致します。ゆつくり拝読いたします。今後御体を御大切に百才までも健やかに過されることをお祈り致します。

○ 広 沢 忠 彦

御台名は父より雷の如く承り居り候。貴者は非常に興味深く、小生等の子供時代の事を想ひ出し乍ら拝読致し候。

○ 長谷川 卒助

批評がましいことを申してすみませぬが、「北汀俳句抄」を第一によしこいえます。和歌に於ては所謂新派的に新鮮味が少ないのであります。文章の方に於ては晩年専ら仏教研究に没頭せられて吾が船木の黒瀉三如先生の名も見えすし、私も親しく接した真理運動の高神覚昇先生、海野鏡円師の名前など出て居り、当時をかへり見て懐旧の情を新にしました。政事時事問題では鉄管問題を面白く拝見しました。

○ 梅原 成美

かゝる壮筆は実に一人に一人も無之、ほんとうに頭が下ります。貴下は老来多々益々御健斗ですね、老生も貴下に鳴鞭されて第二の悲願達成に目下躍進しています。

○ 庄司 忠

全く壯者を凌ぐ幾多の御力作に驚き入りしました。昭和の吉田松陰を思はず様な御生涯の記録に、尊さと生命力の漂ひを見出ししました。

○ 坂本比巨式

繁中御著作の事、先輩の御活動に対し頭が下ると共に、閑中何事もなし得ず、無為の送日致し居る己を恥しく感じます。

○ 村上 孟太

早速拝読させて頂きまして共に、長く記念として大切に保存致します。

○ 村上 成行

したが、結局顧問広沢豊作君が「今回は勝野井君を推し、次回は必ず山本君を推挙する」との発議によつて、二年先を確約して矛を納めたが、昭和十一年の改選時には君は己に医師会長の職を去つてゐたため、如何ともすることを得ず、遂に長蛇を逸して仕舞つた。今思ふても残念の極みである。

初代阿武郡学校医会長であつた君が、昭和五年に学校医会長を山本公房氏に譲つたのは「郡医師会長の要職に就いた暁、二つの会長を兼ねなくとも」と私が進言して、君が気持ちよく譲つて呉れたのである。私と性格は異なるが、何か一脈相通するものがあると私は思つて居る。

電燈問題では私中正派で、君とは立場が異つてゐたが、問題が解決したあと、君が育てた桜の苗木拾本を贈つて呉れた。其中六本は枯れて、残り四本が今日なほ老木ながら景気よく茂つて、私の庭園の春を飾つてゐる。咲き匂ふ桜花を見る毎に、君の當時を追憶する一つの好資料である。

○ 久保 常美

山本勉弥翁の萩回顧録を拝見して若き日の闘志抱きて日向ばこ 雲仙

○ 益田 與士雄

○ ヤマトペンヤの七字を頭に置きて

ヤ 山口県議逐鹿戦

マ まだ壮かりし先生の

モ 持ちたる信念いとかたく

ト 通す一筋バツクボーン

ベ 別して心魂傾けて

貴著早速拝見させて頂き、昔を懐しく大変面白く読ませて頂きました。老いて益々御精悍な先生の尙一層の御活躍を心から御祈り申し上げます。

○ 田中 清人

貴著頂戴感謝に堪へません、小生萩を出てこの地に遷り住み、星霜二十数年、人生の辛酸をなめつくし、六十に手が届く様になりました。萩時代の若さと元気を回顧して今昔の感にたへません。越して来し六十路の旅や道けわし

○ 柳 義雄氏夫人

結構なる御著書御恵送にあづかり、有難く厚く御礼申上げます。主人目下病臥中につき、全快致しましたら読ませて頂くと申しております。

第九章 萩の医友

○ 和田 涉

君の回顧録を見て、種々と往時が絵巻物の様に展開する。昭和五年に君が阿武郡医師会長となり、昭和七年初代萩市医師会長となつて、昭和十年鉄管問題で医師会長を辞任し、其のあとを私が會長となつたが、此の永い期間随分君は医師会の為め尽して呉れたのである。君は外柔内剛、所信に向つては一歩も引げぬ熱と意気を持つて居る。私が今に残念に思ふ舞台裏の一秘話がある。昭和九年四月の県医師会総会に於て、県医師会長選挙に際し、会長選挙委員会で、故宮原晋吾君と、私とが強力に、山本君を推薦し、一方時の副会長勝野井素一君を推すものとの間に火花を散らして論争

ン 蘊奥きわめし研鑽は

ヤ 山口県史に輝けり

草庵

○ 河野 武熊

昔を思ひ出し、愉快に拝読致し、然も感慨無量でございます。

○ 河村 重雄

先生の歩んでこられた道を読ませて頂き、感慨一しほでございます。

第十章 萩の知友

○ 吉武 恵市 (元労働大臣)

御丹精の貴著御恵贈に預りまして有りがたく御礼申します。

○ 田中 龍夫 (元山口県知事)

御芳書と貴著ありがたく拝受致しました。

○ 福田 彦助

毎々各種の名著を以て萩地方の文化向上に御貢献の段敬服の外ありません。御枉駕の際老生は在宅中でしたが、当時庭の掃除中に拝顔の機を失し、誠に申訳なく且つ遺憾千万に存じました。

○ 吉松 毅章

一読再読するに山本先生を中心としての萩市政の一断面、萩の社会運動、仏教徒としての先生の所信論策全篇ごとく珠玉の文字、多年に亘る是等の記録はよくも斯くまでに丹念に、輯録保存されしことに一驚し、その著作に対し万腔の敬意を表するものがあります。

○ 倉田 晋七

早速一気に拝読、或は懐旧の情油然而たるものあり、或は滋味の心魂に徹するあり、深く感銘いたしました。

○ 竹内 八郎

○ 巻頭の近影三首

紋付を召してみ胸を張りたまふ

九華堂先生もの言ひたまふがに

先生の温顔に吾は見入りつゝ

純く尊き一生をおもふ

七十を過ぎて明るき眸に

ゆたけくすがしく何を見たまふや

○ 所感四首

折折にのみてみづからを浄めむと

たのしみてもつ款回顧録

潔癖に端正にすぎ来たまひし

先生なればこの書尊む

わが頬に電気治療をしたまひし

大正六年の先生も知る

誠実に一貫したる文字にして

こだまはひびくこの小冊子

○ 国司 正隆

御丹精込めた書物御送附下され有難く感謝致します。今後楽しみ
に拝読させて頂きます。これ丈の書物を御作製するまでには大変
であつた事と存じます、先生なら出来たことよと母と共に喜んで
居ります。

○ 渡辺 勉 知

御患与の貴著早速昨夜から拝読、未聞の事共多く感歎に堪えぬも
のが多く、其内親敷拜芝御礼申し述べますが、取り敢へず御礼まで
○ 光井 泰 乘
御来訪大変結構な著書を読み、永く参考書として大事に保存致し
ますと共に、先生に接した感じをいつ迄も忘れずに思ひ起さして
頂きます。

○ 堀田 断 蔵

早速拝読しましたが、更めて往時を追懐、種々感想にふけりまし
た。社会変遷に適応して生存するには、常時の修養を要すること
は不可欠の条件なることを、更めて痛感しました。先生の御長命
と活動とを祈念希求して止みません。

○ 河野 道

一読するに及んで文中に私が関係した事件は特に再読致しまして
回顧の情に耐えず、時勢の変遷とはいえ、現在の情勢に比して考
へさせられることが多く、先生の御力作御努力に感服いたしました。
○

第十一章 直接の挨拶

○ 厚 東 常 吉

よくやつてじやとみんな感心して居るよ。この包みの中には紙切
れがはいつて居るが、心よく受けておくれ。

○ 桜井 武 三

今まで気がつきませんでした。先生が自警会創設の際話された
訓言七ヶ条は私の習性となつて居りました。

○ 三井 政 一
お話をぢかにきくようでした。

○ 門田 莊 吉

いろ／＼のいきさつがよくわかりました。先生の行動は別におわ
るい所はありません。

○ 神野 真 津 子

新八十八ヶ所御詠歌も面白いと思ひました。

第十二章 若かりし萩の友

○ 片岡 勝 資

先生医業五十年で止めなされたのはむしろ御祝ひ申上げます。先
生御米秋当時私は秋甲字の撃剣道場で一番習つたのが第一印象で
した。

○ 河野 喜 三 (山本道場歌留多選手)

久振りに恩師の声咳に接した気持で毎日拝読して居ります。読む
程いよ／＼郷愁を深めて居ります。

○ 国重 小 五 郎

御頑健にて郷土の為に御尽し相成り、且又学問、趣味各方面に
涉りても深き御嗜みを感ぜらるゝ様を偲び、景仰を禁じ得ません

○ 松 原 正

御近著頂戴いたしました、その夜の中に一気に読了、先生の御近
影を拝しつゝ、親しくお話をきく想ひをしてなつかしく存じました
私が初めて先生にお目にかゝつたのは中学一年生の時でした、今
から殆んど四十年にもなります、唐樋のお宅へご診察を受けにゆ

きました、その時先生は来客へしきりに古戔に就てご説明なさつ
て居りました、この先生はエライ古戔にカメラになつた先生だと
云ふ印象を受けました。「註カメーになるとは無ちゆうになると
云ふ意味で当時学生間に流行した隠語」(以下再々面会時の模様
故郷の状況、亡母追慕の和歌、中学卒業後の経歴、村田峰次郎翁
との交情、横山健堂先生父子のこと、現下の家族状況など十行二
十字詰の原稿用紙十九枚に認められあり)

○ 金子 栄 一

暁鳥師去り、又先生を取りまかれた仏教研究会の方々、八道弥七
氏常川氏皆憶出の懐しい人々です。小生萩在任時代が偲ばれてな
りません。

○ 岡 智 教 (福栄村紫福)

自警会の昔を偲び茫々四十年、旧友をなつかしく思ひます。小生
も終戦後帰国農村に暮し、時には当地パレンの調査も致して見
ました。

○ 波多野 義 貫
萩では亡父母はじめ一家医療でお世話になり、又先生の文化活動
により度々良いお話をきく機会を与へていただいたことをまざ
／＼と憶ひ起します。自警会員として「兎狩り」に誘はれた時、
寺の子弟の手前遠慮したことをハッキリ記憶しております。去る
四月まで山口に居りましたが同僚檜垣茂君が一度先生のお宅を訪
づれ古戔藩札を見せていたゞき度と申しますので、先生が斯道の
名家であることを知りました。

第十三章 親戚関係

御生活ほんとおよろしうございます。

不破 鈴子

随分いろいろと資料をお集めになつて、お書きになつていられるのに驚きました。私などもう十年二十年前のことは忘れてしまつている有様にて、甚だはづかしい事と思ひました。

第十四章 其他丁重なる謝状、謝辞 を寄せられたる諸氏

山口英、長嶋紀一、新藤武彦、松本郷三、小林美之助、緒方久一郎、木村義雄、齋藤武文、松井正道、安藤義人、大賀かね、山下誠一、安村正人、河村定一、福田一良、河上屋千代雄、村田正雄、桑原光広、齋藤五郎作、熊谷孫四郎、石丸権造、粟屋春太郎、磯川亀七、大藤利治、山根信太郎、吉村満介、佐伯一男、湯島敏助、波多野通因、秋田本定、松岡六雄、三上文雄、河村アキ、阿部嘉子、桜井豊子、県立萩高等学校、県立萩商工高等学校、明経中学校、山本忠之、中村政、柴田敏夫、堀永秀夫、佐伯清音、久志敬範、藤田良平、勝山平八郎、重富美子、林貞子、林芳夫、近藤勝次郎、中村武子、浜中新一、林馨、阿部昭子、二階謙二、大多和とみ子、福田幹雄、田口幸雄。



齋藤 萬寿子

この度思ひがけなき御贈り物ありがたう存じました。御近況の一端を知ることが出来うれしう存じました。お写真がごき御父上様にそっくり伯父上様ではないかと思つた位でした。私四年前脳溢血で倒れ右手の自由を失ひましたが、お蔭様で今は孫の世話が出来るやうになりました。大阪方面へお越しの便がありましたら奈良へもお立寄り下さい。

早川 富美子

早速拝読させていただきました。五十年を有意義におすごしなさいました様子がアリ／＼と知ることが出来、今更ながら叔父さまを見なをしましたことでございます。

近藤 喜恵門

貴著ゆる／＼拝読させて頂きます。輝夫は京大大学院にて電気工学専攻、直ぐ三菱電機会社に入社、極めて元気にして居ります。

森 豊彦

私とて追憶に耽る記事多彩のことですから、萩に御縁の深い方にはどんなに思い出の泉のように愛読されたか想像に余りありません。どうか尚精進御元気で御健筆を進められんことを祈ります。何かこれが最後の筆といった感が胸を打つて仕方ありません。

松尾 隆助

御書の内容、貴下の御人格と蘊蓄の深さに、驚歎の外はありません。

山田 ゆた子

お送り頂いた御本は主人共々楽しみみて拝読させて頂きます。主人はお兄様の余生の御生活をうらやましく存じてゐます。御趣味の

あごがき

昭和三十三年九月十六日に先生が拙宅に「萩回顧録」を御持参になりました時、本当に良かったと安堵いたしました。先生御自身序文にお書きになつているように、これで御念願の「萩文化叢書」が完結したわけではありません。まいが、一應主要なものは御刊行になつたと愚考いたします。実は前年第九卷「萩の歌人」印刷中、大患（肺炎＋膿胸）のため臥床なさいました時、主治医の兼田功博士と共に、とても心配したものでしたが、天は先生に幸いして御全快になり、第九巻も無事刊行、引きつゞき先生の最も希望して居られました第十巻を刊行なさいましたことは眞に御同慶に堪えません。

「萩回顧録」は卒直に申しますと、少し物足りなく感じた点があります。例えば本職の医師としての御活躍や、萩文化聯盟のことなどがあまり書いてないことです。

先生の編集なさいました「法鼓」や「萩文化」や御著書は全部いたゞいて

私の座右にあり、常に貴重な参考書として活用してはいますが、本の方はその体裁や紙質や印刷などに重点が、おかれていませんので、せつかくの良い内容が見る人に割引されているのではないかと、ひそかに遺憾に思っています。先生は医師会長時代には、終り頃辞職を勧告せられるような悲運に遭われたようですが、今では名譽会員に推薦せられたり、お祝いされたりしまして感無量のこと、思います。今後一日も長く御健康に恵まれ、更に好著を続刊なさいますよう切にお祈りいたします。

終に「萩回顧録」には、昭和十九年六月「萩文化」終刊に際し、短冊に認めて下さいました左記の和歌が採録してありますので、こゝに附記させていただきます。

萩文化の終刊に際し田中助一君へ

芽生えせし萩の香のよし乏しくも

生ひたゝせてよ我に続きて

後学 田中助一

昭和三十三年十二月二十七日 印刷
昭和三十四年一月一日 発行

山口県萩市江向四二三番地
編者 山本勉 彌

山口県萩市江向四二三番地
発行所 萩文化協会

山口県萩市御許町一三番地
印刷所 株式会社 萩響海館

山口県萩市東田町五八番地
発売所 株式会社 しらがね 白石書店

電話 八四番
振替大阪三七九三番

不許
複製

TRC102095

灰回頂録付録
こぼし

20
3
5

萩市立萩図書館



111426979